

アカミミガメ対策 市境を越える

松田直樹・藤原繁樹・杉山真吾（明石市市民生活局環境室環境総務課）・鈴木孝典・岸本祥・中村淑樹（神戸市環境局環境保全部自然環境共生課）

Removal of Red-eared slider in Akashi city and Kobe city

By Naoki MATUDA, Shigeki FUZIWARA, Shingo SUGIYAMA, Takanori SUZUKI, Akira KISHIMOTO and Toshiki NAKAMURA

1. はじめに

明石市と神戸市西区には、多くのため池や水路、河川においてアカミミガメが繁殖しており、従来から各々の行政区域でアカミミガメ対策を実施していた。

しかし、これらの水辺は市境を越えてひとつの水系を形成しており、生物多様性保全の観点からも広域的な対応が望ましいため、両市が共同してアカミミガメ対策に取り組むこととなった。

2. これまでの明石市・神戸市のアカミミガメ対策

明石市では、平成23年度より対策を開始し、防除調査、市民参画型防除への協力、条例によるアカミミガメの放逐規制、飼えなくなったアカミミガメを市が引き取る「カメダイヤル」などの事業を行っている。

一方、神戸市では、平成26年度より対策を開始し、淡水ガメの生息実態調査及びアカミミガメの防除手法の検討、防除実施団体への補助金交付を実施している。平成29年度には生物多様性の保全に関する条例を制定し、アカミミガメの放逐禁止や販売時の説明義務などを規定することとしている。

3. きっかけは瀬戸川「カメの動きをしらべてみよう」

平成26年度に明石市域の瀬戸川流域で、大規模なアカミミガメの防除を実施したが、その後の調査でCPT（1畝あたりの捕獲個体数）が防除直後に比べ上昇していることがわかった。

他地域からの流入の可能性もあったため、平成28年度に調査区域を神戸市域まで拡大し、明石市（明石市ミシシッピアカミミガメ対策協議会）と神戸市が共同（環境省、兵庫県も参画）でカメの移動状況調査を実施した。

アカミミガメに標識を施し、再度捕獲する調査を行った結果、調査期間内に調査区間で再捕獲したアカミミガメは、それほど移動していないことがわかった。効果的な防除手法を確立するためには、アカミミガメが増加した原因について、引き続き調査する必要がある。

4. 深化する両市の連携「明石・神戸アカミミガメ対策協議会」

取り組みをより強力に推進するために、平成29年4月に、明石市・神戸市が中心となり見出しの協議会を設立した。両市域におけるアカミミガメ等の水生の外来生物の防除や、市民への啓発等の事業を実施する。市域を越え水系単位で事業に取り組むことで、安定的にアカミミガメの生息数を低減させ、もってアカミミガメの生息密度の低減、効率的なアカミミガメの防除管理手法の確立、ひいては水辺の生態系の保全・回復、希少な野生生物の保護・保全を実現したいと考えている。